

年間第三十主日

2021.10.24

マルコ 10・46-52

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

イエスが、ユダヤの多くの人々が巡礼の旅ごとにエルサレムに向かう道、サマリアの土地を避けて、回り道でもヨルダン川沿いの道を南下してエリコに入ります。エリコがエルサレムへの最後の宿場町となります。このエリコで起こったことをわたしたちは福音書を通して知っています。

徴税人の頭であったザアカイに、イエス様は木の上にいる彼に向かって目を挙げて、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日あなたの家に泊まる」、そのようにおっしゃってくださいました。こうしてザアカイはイエス様をお迎えして、「今まで自分の拠り所としていた財産を貧しい人々に施し、誰かにお金のことで迷惑をかけていたらそのすべてを償いとして元通りにします」、こういうふうに申し上げました。

そのようなザアカイにイエス様は、「この人々の目から恐れられ憎まれているザアカイも神の民の一員である」、そのようにおっしゃってくださいました。ザアカイの家にお泊りくださいました。(ルカ 19・1-10)

今日の福音のバルティマイも、イエス様に「あの男を呼んできなさい」とお声をかけていただいて、イエス様の振り向いてくださったその目をしっかりと見つめて、見えないはずの彼の目がしっかりとイエス様を見つめているかのように、後になってバルティマイが思い出しても自分でも不思議に思うほどに、「あのときわたしはこの目でしっかりとイエス様のお姿を見ることができていたのだ。そのイエス様のもとに躍り上がって走り寄ったこのわたしの足が確かにわたしをイエス様のもとに導いてくださった。それだけではなくて、イエス様のおそば近くにやってきた人々の中に迎え入れられて、自分もその列に加わって、メシアがおいでになられると信じられていたイスラエルの都に、イエス様の後に従ってついて行くことができた」。

バルティマイの心に満ちていたその喜びをわたしたちも分かち合って、こうしてイエス様に呼ばれて、イエス様のおそば近くで、イエス様のお言葉とイエス様のお体に養われて、共にイエス様の後について行く。大勢の人々にこの喜

びを分かち合うことができる。そのような恵みをこのミサを通してイエス様から頂いて、日々のわたしたちの生活が今までとは違うものになっている、そう気づいて、わたしたちも「不思議だな。イエス様がおっしゃった通り、『あなたの信仰があなたを救った』。ただ単に自分が救われているだけではなくて、その救われている喜びを周りの人々に伝えていくことができる」。

そのような恵みを与えられた者たちとして、神の民の一員としてわたしたちが与えられているこの使命を果たしていけることができる恵みを主に願って、このミサをお捧げいたしましょう。